

アジアの紛争経験国における平和構築・紛争予防
教育のプログラム評価方法の検討
— 授業内容, 方法に関わるプロセス評価の視点の探索 —

池田 満(南山大学)

福田 彩・宮城 徹(東京外国語大学)

平和教育に関わる心理学研究の必要性

- 平和と心理学に関する代表的な日本語書籍の内容
 - 心理科学研究会（編）（2014）『平和を創る心理学』
 - 「犯罪・非行における暴力」「暴力とジェンダー」「偏見と差別」「自己肯定感と平和」「メディアと暴力」
 - 大淵憲一（監修）（2016）『紛争・暴力・公正の心理学』
 - 「攻撃と感情」「対人葛藤と対処」「公正と現代社会」「集団・文化と紛争」「犯罪」
- （日本の）心理学における紛争研究のトレンド
 - 個人間，小集団の葛藤や暴力，異文化間接触
 - 実験的研究，平時の調査研究
 - 理論的基盤としての価値はあるが，実際の武力紛争の解決，予防に対する適応可能性は未知

平和教育の課題

平和教育のタイプ

告発型

- ・ 戦争の悲惨さや、戦争や核問題が深刻化、重大化していることを問題提起し告発する学習

共感型

- ・ 戦争、平和問題に対して、どのような努力がなされてきたかを追体験させる学習

価値注入型

- ・ 戦争の原因を特定し、その解決は「こうあるべきだ」と問題解決の方向性を教え込む学習

問題点

心情、情緒への
過度の依存

立場や価値観の
多様性の軽視

戦争教育化：平和を
戦争の裏返しと考え、
平和希求と戦争を無く
すことを同一視させる

グローバルキャンパス・プログラムとは

- 東京外国語大学『平和構築・紛争予防講座（PCS）』
 - 平和構築や紛争予防に貢献する人材を育成することが目的
- グローバル・キャンパス・プログラム（GCP）
 - PSC授業の一環。としてGCPを開始
 - 国境を超えた学生・教員同士のコラボレーションによりPCS分野での共同教育及び共同研究を実現するための学術協働プログラム
 - 参加大学（2016年度）
 - カブール大学（アフガニスタン），ガジャマダ大学（インドネシア），パニャストラ大学（カンボジア），ペラデニア大学（スリランカ），ムンバイ大学・イスラム工科大学（インド），カイデアザム大学・アザッドジャンムーカシミール大学（パキスタン）
 - 教員の専門領域
 - 国際政治学，国際関係論，社会学，平和学，ソーシャルワーク学

GCPの授業概要

- インターネット会議システムを利用した講義と参加者同士の間でのインタラクション
 - 週1回3時間を5週間、教授言語はすべて英語
 - 基礎コース
 - 目的：平和構築・紛争予防学の理論の学習
 - フォーマット：教員による講義、参加者間での討論
 - 上級コース
 - 目的：理論を用いての平和構築・紛争予防学のケーススタディの考察
 - フォーマット：学生による共同研究プロジェクト，プレゼンテーション，ディスカッション



コースの目標と内容

• 基礎コース

• 目標

- 学生が、平和構築および紛争に対する感度を上げるため、多元化された視野をもって自身らの紛争環境を批判的に検討できるようになること

• 内容

- イントロダクション
- 平和と紛争の理解
- 紛争解決方略（トップダウン）
- 平和構築のためのコミュニティの取り組み（ボトムアップ）
- 正義と和解

• 上級コース

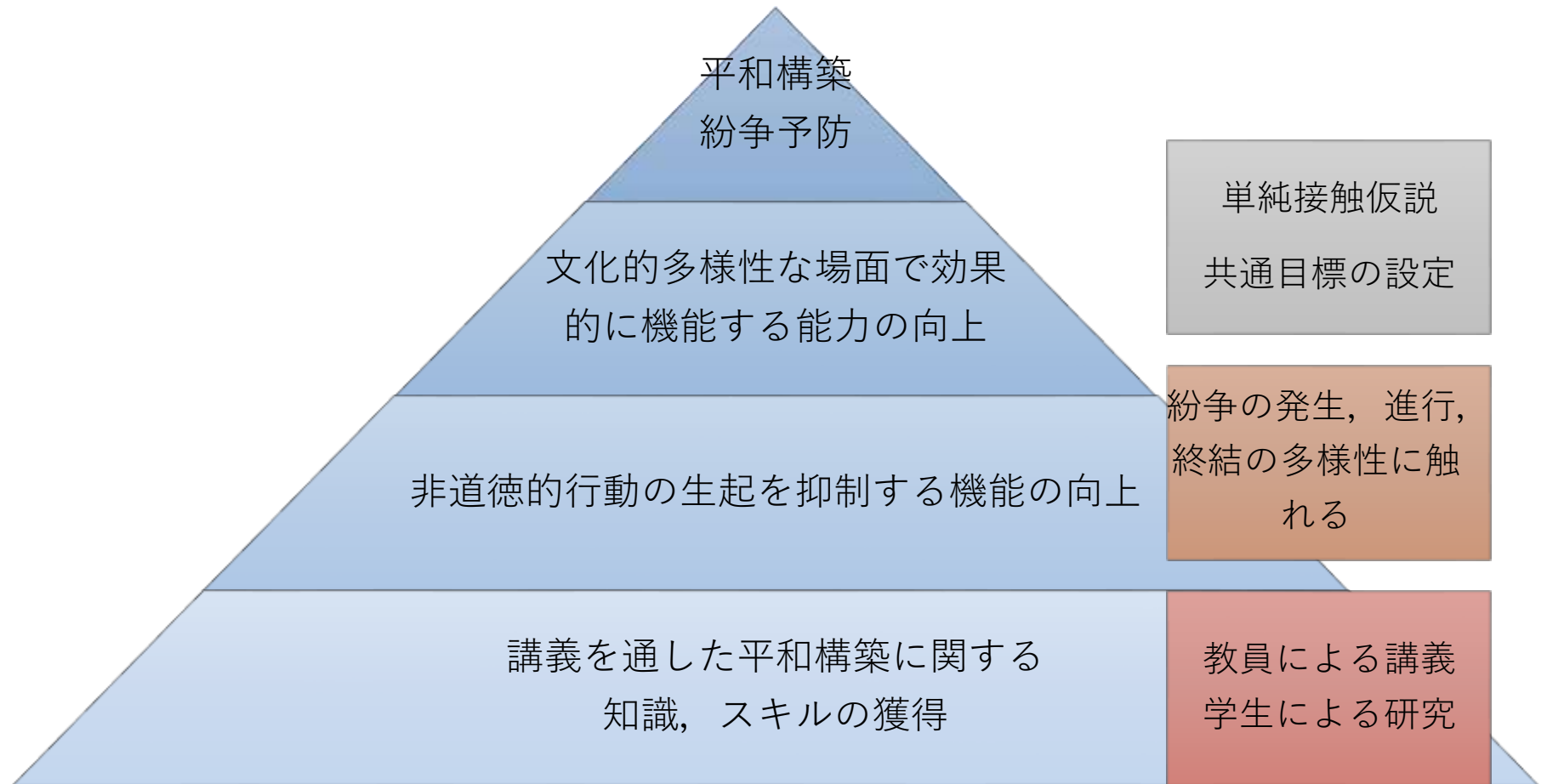
• 目標

- 学生が、国際的に多様な文脈の中で、PCS理論の適用と分析のスキルと能力を身に付けること。

• 内容

- 資源分配：紛争の政治経済的ダイナミクス
- 紛争分析ツール
- 紛争解決のための介入手法
- 紛争研究の方法・紛争研究論文の書き方
- 学生によるプレゼンテーション

GCPの目標



これまでに示された成果

- アウトカム評価
 - 紛争の原因，解決に対する主体的関与の意識の上昇
 - 道徳的不活性が，わずかに低減
 - 文化的知能が，わずかに上昇
- プロセス評価
 - 授業への満足度と関連する要因の検討
 - グループプレゼンテーションのあった回の満足度が高い
 - 教員への学生からのフィードバックによって，学生の満足度が上昇

本研究の目的：GCPのプロセス評価

- プロセス評価
 - プログラムの実施プロセス（プログラムの内容や実施方法）の評価
 - プログラムの継続的な改善，発展に有効かつ必要
- GCPのプロセス評価の目的
 - プログラムの効果や効率性の向上，発展
 - プログラムの普及：他の場所や状況への汎用性などを検討
- GCPのプロセス評価の課題
 - 他に例のない教育プログラム→プロセス評価の指標が未知
 - 多国間をインターネット回線で結んでいること
 - 戦争や紛争に対する具体的な解決，予防の手法
 - 対立関係にある学生が対面して授業を受けること
 - 全てが外国語である英語で行われること
- GCPのプロセス評価の視点を探索的に検討し，教育プログラムの改善，発展への示唆を得ることが目的

方法

- 調査対象者
 - 2015年度春期のグローバル・キャンパス受講生74名
- 調査方法
 - “Survey Monkey”を用いたオンライン調査（英語）
 - 各授業終了後に、授業のリフレクション調査として全5回実施
- 調査内容
 - 自己の学びの程度→＜1：満足していない＞～＜5：満足している＞
 - 授業に対する改善要望→自由記述
- 分析対象
 - 各回で、回答数のばらつきが大きかった（8～34）
 - 本発表では、最も回答数が多かった第4回調査のみを分析対象とした

GCP受講者および分析対象者の特性

• 大学所在地

	受講者	分析対象者
インド（カシミール）	18人	
スリランカ	7人	3人
カンボジア	13人	7人
パキスタン（カシミール）	26人	
日本	10人	5人
回答拒否・無回答	—	17人
合計	74	32

• 年齢・性別

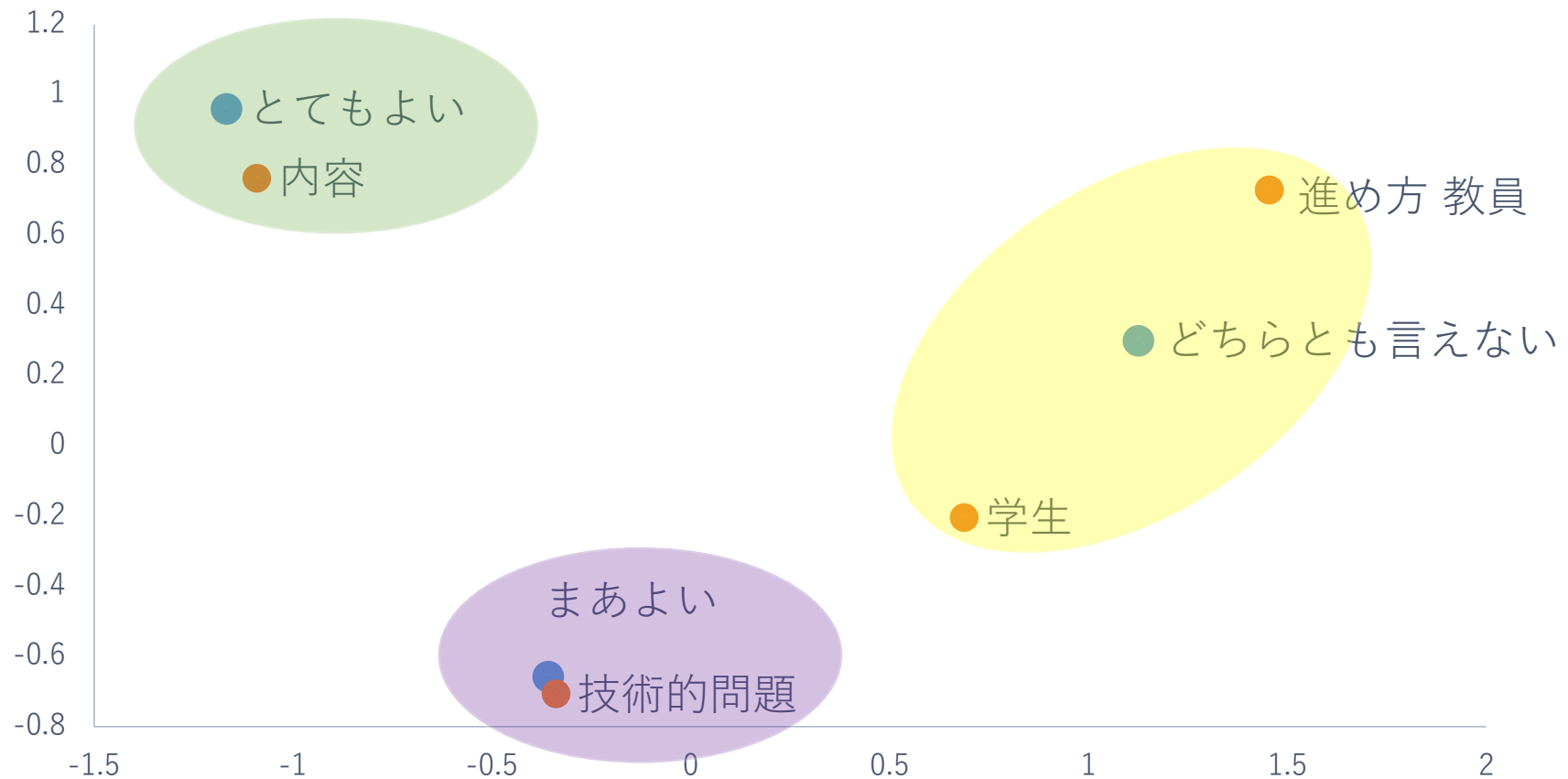
	受講者※	分析対象者
年齢		
20歳未満	1人	1人
20～29歳	44人	13人
30～39歳	2人	1人
40歳以上	2人	
不明	25人	17人
性別		
男性	27人	
女性	21人	
不明	26人	

「授業の改善要望」：カテゴリと記述例

カテゴリ	記述例
内容	• Should explain more about how to intervention. And should add more lesson about the benefit of intervention and teach the student do not think their own interest as well as the countries does not think only their own interest. • The topic can be provided a little earlier to students so that students can have a better understanding of the contents to be discussed, and can relate to many other events both globally and international level.
技術的問題	• The quality of the network should be improved as the voice was nor clear or loud enough in some parts. Also, due to this reason, not all students can present fully or participate in discussing. • Everything was somehow in an orderly fashion just the technical glitch should be looked upon!!!

カテゴリ	記述例
進め方	• Punctuality needs to be improved. • Presentations need not always use a PPT because it is like we read out what is written there. what we need more is explanation and analysis of the topics presented.
教員・学生	• The art of delivering messages is needed to be improved. I want the instructor to present elaborately than ever and today later. • Presenter should speak more clearly, not to be fast.

「改善要望」と「自己の学びの程度」との コレスポンドンス分析



考察

- 全体的傾向

- 自己の学びの程度が高い学生

- ⇒ 学びの内容に対する要望

- 自己の学びの程度があまり高くない学生

- ⇒ 個人レベルの課題や技術的問題に対する要望

⇒ 自己の内省能力の問題？（Nisbett & Wilson, 1977）

- 学びの程度が高い学生

- ⇒ さらなる学びに対する欲求

- 学びの程度があまり高くない学生

- ⇒ 周辺的事象へ帰属

- 授業内容について
 - 授業担当者へのフィードバック⇒すでに内容の改訂に着手
- 技術的問題について
 - 参加国の通信設備が不安定
 - 外出禁止令が出され、オペレーターの到着が遅れる
 - ⇒ 現状での解決、改善は困難
- 進め方について
 - 時間厳守が困難⇒時間に対する意識の文化的違い
 - 教員・学生の問題と関連
- 教員・学生について
 - 英語運用能力のばらつき⇒教員1名（カンボジア在住米国人）を除き、英語が母語でない中で授業を実施
 - ⇒表現の限界
 - ⇒発表や討議の内容、進行に影響